



平成26年7月16日(水)
校長通心 No.29 校長 馬清教二



みずすまし (吉野 弘)

一滴の水銀のような みずすまし
やや重く 水の面を凹ませて
浮いている 泳いでいる
そして 時折 水にもぐる
あれは 暗示的なこと
浮くだけでなく もぐること

わたしたちは
日常という名の 水の面に生きている
浮いている だが もぐらない
もぐれない……日常は分厚い

水にもぐった みずすまし
その深さは わずかでも
水の阻みに出会う苦
身体を締めつけ 押し返す
水の力に出会う苦

生きる力を さいげなく
水の中から持ち帰る
つぶらな可憐な みずすまし
水の面にしたためる
不思議な文字は何と読むのか？

みずすまし
あなたが死ぬと
水はその力をゆるめ
むくろを黙って抱きとってくれる
静かな静かな 水底へ
それは 水のやさしさ
みずすましには知らせない
水の やさしさ

文武の両輪をつなぐ絆シャフトの軸受けに潤滑油を差し込む夏休み

ワールドカップブラジル大会もドイツが24年ぶりの優勝を飾り幕を下ろした。ワールドクラスの選手たちの精いっぱいプレーや自分を犠牲にしてまでチームに尽くすプレーは見ていた人たちに「感動」と「さわやかさ」を与えてくれた。日本代表は予選リーグで敗退したものの、日本人サポーターたちが青のゴミ袋(侍ブルー)を膨らませ応援した後、スタンドのゴミ拾いをしたことが世界中で話題となった。試合に勝とうが負けようが、**損得抜きで「奉仕」する姿も**、「周りの人たちを『感動』させ『さわやかさ』を伝える行動になるんだな」と改めて気付かされた。この間の白髭神社祭りでは、本校の生徒たちがゴミ拾いをしてくれてた。と地域の人たちから感謝の言葉が届いている。うれしい限りである。

さて、1学期が終わる。文武の両輪を回転させながら学校生活を送り続け、先週の金曜日は、合唱コンクールという「武の車輪」で各クラスの絆シャフトづくりに真剣に挑戦した！！シャフトづくりの手応えはどうだったろうか？…**仲間の良さを見つけることができ、それに支えられている自分に気がつくことができた**だろうか？**自分自身で気づいていなかった自分の良さが、周りの支えになっていることに気づくことができた**だろうか？そして何よりも、**自分自身にも周りにも共通して克服していかなければならない改善点があることに気づくことができた**だろうか？……1学期を振り返って見たとき、両輪もシャフトも学級の仲間や学年の仲間という「集団の力」がとつともとつとも重要に作用してつくられてきたことがわかると思う。…例えば合唱コンクール。歌が苦手だった人は、毎日の練習が憂鬱で憂鬱でしかなかったと思うけれど、仲間という集団の力に導かれて、クラスのために自分のできる精いっぱいのパフォーマンスで協力できてしまったはずである。思い出してみしてほしい…。明後日からの夏休み、この34日間は、自分自身と向き合う季節となり、集団の力を借りることができない。だから、苦手なものはどんどん後回しになっていく。夏休みの宿題を休みが終わるギリギリに仕上げた経験は誰にでもあるのでは？…そういう意味で、夏休みは自分との闘いになるのだけれど、普段の忙しい学校生活より自分自身の時間をつくれるから、その使い方次第では、ひとまわり自分を成長させるチャンスにもなる。チャンスをうまく生かしたら、文武の両輪とシャフトをつなぐ軸受け部分に潤滑油をたっぷり注ぐことにつながるから、2学期のスタートで、また両輪をなめらかに勢よく回していける！！……では、この夏休みに自分自身を成長させ潤していくにはどうすればいいのか？……

その1…「目標」を立て、それを達成するための「計画」をつくり、ひとつ自分で決めたことをやり通すべし！

例えば一日10語の英単語覚えると決めて一年間やり通すことができたなら3650語の単語をマスターしてしまう。そう計算して計画を立てても果たして、一年間続けられるだろうか？腕立て伏せを毎晩寝る前に50回やる。一年間続けたら素晴らしい筋肉がつく。がしかし、半年間続けられるかな？日記をつけると決めて三日坊主で終わらないか？…「何でもいい！！自分で決めたことをやり通せるかどうか！！」が人を成長させる。やり通すためには今の自分自身と闘い、その自分に勝たなければならぬということである。人はある日突然変わることは難しいけれど、「ひと夏やり通す」ことで変わることは可能だと思う。

その2…ゲーム&ネットはルールを決め、自分の価値観や感性と違ったものを持った人たちとのコミュニケーション技術を磨くべし！

みんなが将来働く、実際の社会は「異質な他者(自分の価値観や感性と違ったものを持った人たち)」ばかりだといっていると思う。そのとき、たぶん必要とされる力は、求められるひとつの答えを導き出す力よりも、**自分と違う考えを持った人たちとつながるために、どうコミュニケーションをとっていいか？**を磨かなければならないんだと思う。しかし、今の超便利社会では、その「コミュニケーション能力」を身につけるのが難しい時代背景といえる。なぜなら……例えば…、コンビニに行ったとする…店内で立ち読みし、外の自販機でジュース1本買って帰るまで、全く他の人とコミュニケーションする必要がないし、おまけに、自販機が勝手に「ありがとうございました」とお礼を述べたりしてくれる…。また、家に帰れば兄弟が少なく、「腹減った」と言わなくてもお母さんが黙っておやつを出してくれたり……子ども目線から見ると、周囲のあらゆることがオートマチックに動いているような感じだ。

おまけに、ゲームは進化し続け、3Dのリアルな世の中で主人公たちが表情豊かに会話する。コントローラを握った小・中学生プレイヤーは、黙ってボタンを操作してればよい。家に友だちを呼んで遊ぶときも、みんなお気に入りのポータブルのゲーム機を抱え、何となくお互いを意識しながらゲームに没頭している。つまり、相手を見ながら会話しながらコミュニケーションをとるというよりは、それぞれがそれぞれの親指の下でコミュニケーションしてしまっている。これが、やがて中学校、高校へと進み、スマホ(ケータイ)を持つ日が訪れると、友だちと会ったり電話するより、メールの方が頻繁になっていく。なかには、1日200通ものやりとりをする人もいるらしい。そうすると、**部屋にいる時間全てを自分の状況をひたすら報告しあうという「独り言の応酬」に費やしてしまう**。もはや、**ゲームとスマホ(ケータイ)は、「コミュニケーションを指先の下に閉じ込めてしまうツール」になってしまった**と言ってもいいのかもしれない。

生まれたばかりの赤ちゃんはお母さんと一体感があるから言葉を発する必要がないけれど、おなかがすけば「オギャー」と泣き声をあげないと望みがかなわないことがわかっていくし、保育園では、オモチャをとられないようにするため「これボクの」とわがままに主張しているのをよく見かける。つまり、「異質な他者」にはたらきかけるために、コミュニケーションをとろうとしているのが人間の原点のような気がするのだけれど……。

ということで、夏休み中、普段よりも多く使える時間がゲームやネット、スマホ・ケータイ三昧では、自分を成長させ、潤すことには絶対つながらない！！高校の体験入学で出会う人たち、家族旅行で訪れた場所、お盆に集まった親戚たち、地域行事でお世話になった地域の人々……夏休みを見送ると「異質な他者たち」は周りにいっぱいいるよ。